

## 評価委員会総合評価

研究課題名：機動観測項目における火山ガス成分観測の実効性調査

評価委員

委員長：竹内義明

委員：高薮出、大野木和敏、石原幸司、前田修平、山田雄二、青梨和正、  
鈴木修、石井雅男、橋本徹夫、齋藤誠、行本誠史、丸本大介

評価年月日：令和2年2月17日

### 1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

### 2. 総合所見

本研究は、火山ガス成分観測に関して、機動観測によって有用なデータを得て、それが火山活動評価に資することができるかどうかの検証を目的とした研究課題である。

本研究により、地方の参加者が測定技術等に習熟した他、気象研や大学の第一線の研究者との情報共有を行えるようになった点は、地方共同研究の人材育成の効果としては優れており、評価できる。また、得られた知見や手法等についてのマニュアルを作って、他管区に共有したことも評価できる。さらに、本研究で取得したデータは、今後の監視手法や研究の基礎データとして活用することも期待される。

一方、九重硫黄山の活動活発化をガスにより確認できたことは、火山ガス測定の有効性を示すことが一定程度できたという点で成果はあったものの、もう少し科学的成果も得られると良かった。

以上のことから、本研究は、概ね適切な目標設定と研究体制のもとに実施され、当初想定した成果が得られた優れた研究であったと評価する。

なお、今後の成果の活用にあたっては、以下に留意して、取り組んで欲しい。

- ・予算に限りがある中、検知管の測定数に限りがあることは致し方ないが、せめて評価誤差が分かるよう、一回の観測機会に多くの検知管測定を複数点で行う機会が何度かあっても良かったのではないかと。業務化を念頭に置くなら、今後、同様な調査を他地域で行うとき、「自動観測」との比較観測も有効だろう。
- ・火山ガスの採取について、火山ガスの研究者として指導を行い、多くの地台の職員に技術を獲得させた。今後、この技術をどのように広げていくかが課題ではあるだろう。